

千葉県相談支援従事者初任者研修

障害者福祉の歴史

医療法人白百合会
中村 淳

この講義のねらい

- どのような処遇を受けてきたか
- どのような法律ができ、どんな支援をしてきたのか、
- 障害者福祉の歴史を理解する。
- **障害者総合支援法**の目的、基本理念や障害福祉サービス等の基本的な内容を理解する。

精神障害の歴史

1. 古代から中世にかけての精神科医療
2. 精神科疾患の始まり・奈良の養老律令
3. 平安時代から江戸時代にかけて、精神疾患の原因解釈
4. 病院の歴史～主に寺による治療

古代から中世にかけての精神科医療

- 平安時代頃まで、精神科疾患は、「物憑き」「物狂い」といった鬼神的な観念。医療の対象というよりは、僧や神官によるお祓いの対象・保護の対象と見られていた

精神科疾患の始まり

- 養老律令においては、精神遅滞や精神疾患、てんかんは病（やまい）と認識されていたようです。
- 精神の障害があるものが犯罪したものは罪を封じ、その供述を認めない。
- 元正天皇が「悲田院」という療病院を建設して病気になった人の救済もしていた。ただし、神科疾患に特別な治療施設もなかったともされている。

江戸時代の考え

- 乱心者の犯罪に対する減刑や赦免の規定はあった。
- 減刑された乱心者は入牢、入檻などの処遇。
- この処分は、あくまで犯罪予防であり、治療を受けていたわけではない。

病院の歴史～主に寺による治療

- 京都の岩倉大雲寺が治療施設として有名。
- 「僧医」は大きく活躍。「もののけ」というものに退治する存在。
- 中世の当時、精神科疾患の治療は宗教的な加持祈祷や灌水が中心だったようです。
- 1332年には光明山順因寺、1599年には爽神堂にて、今に続く「癲狂」治療所が出てきたようです。
- 1890年ころ石神井慈療院（現慈雲堂病院）など
- 公立の病院としては1879年に東京府癲狂院が最初。
- 府立巢鴨病院、府立松沢病院、都立松沢病院と名前を変えて現在に至っています。

精神保健福祉の歴史

- 精神病患者監護法（1900（明治33）年）
- 精神病院法（1919（大正8）年）
- 精神衛生法（1950（昭和25）年）
- 精神衛生法一部改正（昭和40年改正）（1965（昭和40）年）
- 精神保健法（1987（昭和62）年）
- 障害者基本法が成立（1993（平成5）年）
- 精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（精神保健福祉法）（平成7年改正）
- 障害者自立支援法（2005（平成17）年10月31日）

私宅監置の惨状

近世の座敷牢は、世間体を気にした比較的裕福な家庭のもの



呉・ほか：私宅監置論文より

中等度以下の家庭での私宅監置は劣悪な拘禁状況であった可能性が大きい



西丸：精神医学教科書より



第 1 図 (不良ノモノ)

年齢及び性	35年 女
生活程度	兄ヨリノ送金ニテ生活シ、家族2人、生計困難ナリ
監置後年月	5年
監置理由	早發性癡呆ニシテ徘徊癖アリ
監置室ノ置	自宅表入口1坪ヲ利用ス
家人待遇	特別ノ虐待ヲナスニ非ザルモ石謫不充分ニシテ餓饉セシメザル程度ナリ
醫 療	福岡腦病院ニ50日位入院セシム 私宅監置後ハ醫療ヲ施サズ
警察官ノ 巡視回數	月3回

